

麩たまふことなかれ

(脛圍ある弟歎て)

ああ 弟 君泣

麩たまふことなかれ
する

床柱し君れば

親なさけは勝しも
ま

鯨 刃をにぎらせて

衣袴と教しや

衣殺て麩よとて

廿四でを香しや
にし

堺の街あきびとの
さかい

老舖誇あるじにて
しにせ

親名継君れば

麩たまふことなかれ

順

の城ほろぶとも

なごうと

ほろびずとても 何事

憍知じな あきびとの

いへ

家習に無ことを

甕たまふことなかれ

すめらみことは 戦に

おほみづからは 岳まさね

かたみ

互の火壺流

みち

一 獣ものの道 麴よとは

ほま

麴るを 火養とは

おほみこころの 涿れば

いか おほ

もとより 如荷思れん

ああ 弟 戦に

甕たまふことなかれ

ちぎみ

適にし 秋父倉

はぎみ

おくれたま る 母君

歎

きのなかに いたましく
わがこ

我をいへあされ 家守も

一 安すしと聞る 猶ほみよも

母しらが 白髪増りゆく

のれん

暖簾かげに伏て泣

あえかに着にひづま新妻

着とつきるや 念をるや

十月漆で剋たる

をとめ

少女ころを思みよ

この世たれとりの君らで

ああまた誰たれ頼たげき

舞たまふことなかれ

- 打揚るボルは高雲以て 落来
きたるの~~甲~~争~~甲~~颯
- マツチ擦つかのま梅霧か
し ~~擦~~るほどの~~種~~ありや~~種~~
- 麦みなわれよりえらく~~見~~
る~~甲~~ 花買乗妻したしむ~~種~~
- やは~~肌~~あつき~~煙~~ふれも~~見~~
さびしからずや~~道~~説~~種~~



ポツカリが虫したら
舟ふね浮うて掛かませう
波なみヒタヒタ打うでせう
風かぜ少すくはあるでせう

沖おき出でらば暗くらでせう

櫂かいら滴した垂たる水みづ替か

眠ちか怠かいものに聞きえませう

— あなたのと雲くも杖つゑ枕まくら閣かく

は聴き得えるでせう

すこしは降ふても乗のでせう

われらくちづけ接つ唇くちする時とき

は頭あたまあるでせう

あなたはなほもすねごと語かたでせう

よしないことやすねごと拗こ音ね

洩す

らさず秘聴でせう

— けれど漕母やめないで

ポツカリが歯したら

舟浮て掛ませう

波ヒタヒタ打でせう

嵐心はあるでせう